

京田辺市 子ども・学校応援プロジェクト 教育実践モデル校指定事業

「未来を拓(ひら)く、京田辺のひと・まちづくり」

京田辺市の教育は、活力とうるおいのある未来をつくるため、確かな見通しを持って主体的に生き抜く、創造性あふれる心豊かな人間の形成を目指します。

【 モデル校事業の目的 】

京田辺市の未来を担う子どもたちの育成に向け、本事業によりモデル校指定（研究指定）を行うことで、国の教育強化事業並びに京田辺市の教育の中心的な課題解決に向けた先進的な研究や実践に取り組み、特色ある学校作りを進めるとともに、その成果を他校へ波及させることにより、市内全体の子どもの学力や体力等を一層向上させることを目指しています。

【 モデル指定校 】

英語教育モデル校（小中連携）

・・・田辺小学校・田辺中学校

学力アップモデル校（小中連携）

・・・草内小学校・田辺東小学校・培良中学校

学力アップモデル校（単独指定）

・・・三山木小学校・普賢寺小学校・桃園小学校

体力アップモデル校

・・・薪小学校

安全（防災）教育チャレンジモデル校（小中連携）

・・・松井ヶ丘小学校・大住中学校

読書活動推進モデル校

・・・大住小学校



学力アップモデル校

普賢寺小学校（京田辺市水取門田 6—1 児童数：74人）



「自分の思いや考えを生き生きと伝えられる児童の育成」

～確かな学びから 豊かな表現へ～

本校では、兵庫教育大学大学院の勝見健史教授をアドバイザーに迎え、児童に付けたい力を明確にし、単元全体を見通す中で、本時デザインを考えて指導するという教材研究の方法について研究しています。また、校内の掲示板や児童朝礼などを活用して、自分の伝えたい内容を他人に分かるように伝える取組も進めています。取組の成果が少しずつ実を結び、全校児童の前でも生き生きと発表できる児童が育ってきました。

学力アップモデル校(小中連携)

草内小学校（京田辺市草内南垣内 53 児童数：354人）

田辺東小学校（京田辺市東西ノ口 60—2 児童数：227人）

培良中学校（京田辺市東七反割 3 生徒数：329人）



草内小

「小中連携・小小連携を通じての 児童生徒の学力向上」

～自主的に学習する児童生徒の育成～

○小中連携を通じた授業力向上

小中の教員が学校・教科の壁を越えて授業研究を行い、授業のユニバーサル化、主体的・協働的学びについての実践を進め、活用型授業ができる教員の育成を目指して実践しています。

中学校では学習スタンダード、草内小学校では算数のフローシートを授業づくりの基本に据えて、3校とも、めあての確認、まとめや振り返りをきちんと行うことなどを標準化して授業を進めています。児童生徒も落ち着いて授業に取り組んでいます。

○家庭学習の定着

自主学习ノート、家庭学習の手引き、培良ブロック家庭学習トライウィーク（中学校の定期テスト前に、校区を挙げて小中で家庭学習をがんばる期間）等の取組を通じて、家庭で自主的に学習する児童生徒を育成しています。保護者からも積極的に協力していただき、家庭学習の時間も増えています。

○外国語活動の充実

小学校の外国語活動と中学校の英語科をつなげるため、小中の教員が一緒に外国語活動を指導し、フォニックスの導入等、外国語活動のスタイルを作り、外国語が好きな児童が増えてきています。

また、英語に親しむ環境づくりとして、田辺東小学校が中心となって「英語の日」を設け、集会や休み時間も英語に親しむ機会としています。



田辺東小



培良中

学力アップモデル校

三山木小学校（京田辺市宮津宮ノ下4—3 児童数：679人）



「どの子どもできる・わかる・楽しい授業の実践」

～児童の実態に応じた算数授業をつくる～

子どもたちの実態や単元の特性、つきたい力に応じて、3つの授業の型（「教わって考える型」、「選んで考える型」、「響き合って考える型」）の中から選択し、子どもたちの基礎基本の定着が図れる授業づくりを研究しています。どの授業の型でも「板書のしかた」「授業の流れの確認」を統一するなど、ユニバーサルデザインを意識することで、算数好きの児童が増え、自信を持って学習に取り組む姿勢が見られるようになってきました。

英語教育モデル校（小中連携）

田辺小学校（京田辺市田辺鳥本102 児童数：629人）



「コミュニケーション能力の素地を養う英語活動の工夫」

～英語教育改革を見据えた教員の英語力・指導力向上～

子どもたちが英語での会話を楽しみ、コミュニケーションに対する意欲を高めるために、授業では、話し合い活動・体験活動・グループ活動を取り入れ、アクティビティや教材の開発・整備を進めています。また、英語に関する校内掲示・給食時間の英語放送・高学年の校外学習「イングリッシュ・アドベンチャー」など、英語に慣れ親しむ時間を設けています。様々な英語活動を通して、進んで友達と関わり、互いを認め合う場面が見られるようになってきました。

安全（防災）教育チャレンジモデル校（小中連携）

松井ヶ丘小学校（京田辺市大住上西野18—2 児童数：762人）



「自ら考え共に行動できる児童の育成」

～自助・共助・公助の視点をもって～

安全（防災）教育を進めていく中で、各災害の特徴や災害時にどのような行動をとればよいのかを知り、自分だけでなく、周りの状況も考えて行動するという気持ちが、児童に少しずつ芽生えてきました。また、教職員も、災害について改めて考える良い機会となり、避難訓練の大切さや様々な状況にどのように対応して行くのかを考え、安全管理や危機に対する意識が向上しています。

大住中学校（京田辺市大住池平2 生徒数：742人）



「災害に対する科学的な理解と豊かな心情を基盤に、自他の生命や安全を守り、地域防災に参画する実践力の育成」

防災教育を通して、自分の身や周囲の人を守る力を身に付け、地域社会に参画し、非常時には地域の守り手として中心になり活躍していく力を育成しています。そのための知識、スキル、「行動できる心」を道徳・総合的な学習の時間、各教科を通して学んでいます。生徒は学年が上がるにつれ学びを深め、自分の考えだけでなく、他者の立場や考えを取り入れることの難しさを感じつつも、地域社会の担い手としての意識を高めています。

学力アップモデル校

桃園小学校（京田辺市大住仲ノ谷 12—1 児童数：662 人）



「自然への働きかけを通して、論理的に考え、伝え合う力を育成する」
～理科学習における「書く」「話す」活動を大切にして、
科学的な見方、考え方を養う～

教師によるサイエンスショーや理科コーナーなど、自然や科学への興味・関心を高める環境づくりを進めています。「桃園小理科学習スタイル」を基本にした問題解決的な学習に、「チーム学習」という主体的で協働的な練り合いの場を設定して、論理的に考え、伝え合う力を高める授業づくりの研究に取り組んでいます。素朴概念や既習事項を生かしながら、進んで観察・実験に取り組み、理科の授業を楽しみにしている児童が増えています。

読書活動推進モデル校

大住小学校（京田辺市大住池平 88 児童数：271 人）



「生涯にわたる読書習慣を身につけ
自ら読書を楽しむ児童の育成」
～読書に親しみ本を好きになろう！～

子どもたちが学習を深めるための学び合いや、図書を活用した授業づくり、教科で図書を活用した単元一覧表の作成、学校司書との連携等の研究をしています。全校で取り組む選書会や読書タイム、全校読書デー、異学年交流による読み聞かせなどの取組を通して、子どもたちの読書意欲が高まっています。

英語教育モデル校（小中連携）

田辺中学校（京田辺市興戸北銚立 21 生徒数：743 人）



「TNB（田辺中学校）版 Can Do English の創造と発信」

次期学習指導要領から教科となる小学校外国語活動と中学校英語科とを繋ぐため、コミュニケーション能力の育成を目指した Can Do 型の指導と評価の実践研究を進めています。そのため、小中連携版 Can Do リストの作成や小中合同研修会、小学生の英語授業体験や英語を使うことを基本とした授業を進めるとともに、本校生徒の表現力をさらに伸ばすため、他教科でも活用できるコミュニケーション能力の育成を目指しています。

体力アップモデル校

※ 京都府小学校教育研究会研究協力校

薪小学校（京田辺市薪堀切谷 1 児童数：629 人）



「主体的な学習・運動習慣の確立を目指して」

体育学習では、主体的な学びのサイクル（薪スタイル）を確立するとともに、指導方法の手引きを作成し、学習のスムーズステップ化を図りながら、一人一人に「分かる」・「できる」喜びを味わう授業づくりを進めています。薪エアロビクスや薪ストレッチを開発し、全校で楽しみながら運動することを通して、運動習慣の確立、体力・学習意欲の向上に取り組み、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の育成を目指しています。